

京都大学大学院 教育学研究科  
教育実践コラボレーション・センター主催



2013. 8.17(sat) → 19(mon)  
全国スクールリーダー育成研修

# E.FORUM 2013



# Q. 「E.FORUM」とは？

A.

## 研究科長よりご挨拶

E.FORUM は、「学問する」者すべての人に開かれたフォーラムです。「学問する」とは、文字通り学を問うことですが、それは大学の最先端の知を吸収して現場に持ち帰り、知らない人に教えてあげるということを意味するものではありません。大事なことは、大学が創造し蓄積してきた知と、現場で日々生成される知とが、フォーラムのなかで遭遇し、交じりあい、ときには格闘しあいながら、新しい知を創造していくことにあります。「今、教育すること」の意味を深く、広く探っていく E.FORUM を共に創りあげていこうではありませんか。

前平 泰志(京都大学大学院教育学研究科長)

広く教育に関心を持つ人々の

「広場」

です。

現在の日本においては、学校や地域の教育改革を推進するスクールリーダー(教育委員会指導主事、学校管理職・研究主任、地域の教育サークルのリーダーなど)の育成・力量向上が求められています。そこで、京都大学大学院教育学研究科では2006年度にE.FORUMを設立し、毎年「全国スクールリーダー育成研修」を提供しています。2012年度からは、教師をめざす学生たちにも積極的な参加を呼び掛け、教師のライフコース全体を見通した力量向上のネットワークを築くことをめざしています。

本年度も下記の研修を実施いたします。是非ふるってご参加ください。

### I. スクールリーダー育成のための基礎講座

日程： 2013年8月17日(土)・18日(日)・19日(月) (3日間)

※18日は「学校教育研究フェスタ」を兼ねています。  
※1日目・2日目のみの参加も受け付けています。

対象： 全国からの希望者80名程度(先着順)

### II. 学校教育研究フェスタ

日程： 2013年8月18日(日)

対象： E.FORUM会員とその紹介者など 計100名程度

会場： 京都大学吉田キャンパス内  
(詳細は裏面の地図をご覧ください)

参加ご希望の方は、申込用紙(E.FORUM ホームページからダウンロード可能)にご記入の上、8月5日(月)までに、メールまたはFAXで事務局までお送りください(ただし、定員になり次第締め切ります)。

#### 参加費

2日以上：5,000円(京大生3,000円)

1日のみ：3,000円(京大生2,000円)

当日に受付でお支払いください。

※ 懇親会に参加をご希望の方は、懇親会費(3,000円)が必要です。

※ お弁当(一個1,000円)をご用意できます。



お問い合わせ先： 京都大学大学院教育学研究科 E.FORUM 事務局  
〒606-8501 京都市左京区吉田本町 Fax: 075-753-3033  
E-mail: e-forum@educ.kyoto-u.ac.jp

E.FORUM

検索

(申込用紙はホームページからダウンロード出来ます。)

URL: <http://www.educ.kyoto-u.ac.jp/e-forum/>

# スクールリーダー育成のための基礎講座 < 1日目 >

2013年8月17日(土)

会場:文学部新館(第3講義室)

9:00- 9:30	受付		(担当者)
9:30-10:00	オリエンテーション		
10:15-12:00	ワークショップ	(どちらか一方を選択)	
12:00-13:30	昼休み	A:「カリキュラム設計:パフォーマンス評価の進め方」	西岡 加名恵
13:30-17:00	ワークショップ	B:「思考力・対話力を育てる教材開発: 総合博物館を探究する」	大野 照文 石井 英真
17:30-19:30	懇親会	(会場:京大時計台前カフェレストラン『カンフォーラ』 参加費:3,000円)	

※ お弁当・懇親会参加をご希望の方は、受講申し込みの際にお申し出の上、当日に代金をお支払い下さい。  
キャンセルされる場合は8月5日(月)までにご連絡をお願い致します。

ワークショップ

## A: 「カリキュラム設計: パフォーマンス評価の進め方」

思考力・判断力・表現力などを評価・育成するために、今、パフォーマンス評価が注目されています。ワークショップ A では、典型的なパフォーマンス評価の方法であるパフォーマンス課題の作り方を体験的に学んでいただくとともに、ルーブリック(評価指標)についてご説明いたします。また、ポートフォリオ評価法の効果的な活用方法についても、ご提案いたします。

※ パフォーマンス課題の作成に取り組んでいただくため、ご希望の学年・教科の教科書、学習指導要領など、単元指導案づくりに役立つような資料をご持参ください(教員研修の計画づくりをしていただくことも可能です)。

ワークショップ

## B: 「思考力・対話力を育てる教材開発: 総合博物館を探究する」

「総合的な学習の時間」などで博物館を探究するといった機会は少なくありません。博物館で楽しく有意義に学ぶには、どのような学習活動や教材を用意すればよいのでしょうか。

ワークショップ B では、京都大学総合博物館をフィールドとして、自然科学分野の展示物を題材に、見学の際に使うことができる教材づくりに取り組みます。これを通じて、「博物館利用」という文脈を超えて、また、自然科学分野に限らず、知的探究の本質に触れ思考力や対話力を育む能動的な学び(「教科する」授業)をデザインする汎用性のあるスキルを磨くことを目指します。

※定員 30名

## 昨年度の受講者の声

(写真は昨年度の研修の様子です。)

「参加した教員の思考力・対話力を育てるようなワークショップであり、良かったです。今日の感動を子供にどう伝えるか考えてみたいですね。」  
(高等学校教諭)

「知識を深めるとは何か、学ぶとは何か、もっとも根本を教えていた気がしました。」  
(中学校教諭)

「現場の先生方がどのような発想で授業作りをされているかを間近に見ることができて良かったです。本などでは知ることができないリアリティーに触れました。」  
(学生)

「初めての私にも大変わかりやすい内容、スピードの講義でした。パフォーマンス課題は難しいイメージがあったので、特に易しく教えてくださり助かりました。」  
(小学校教諭)



8 月 18 日(日)

会場:文学部新館(第 3 講義室)

9:00- 9:30	受付	(担当者)
9:30- 9:50	オープニング(研究科長ご挨拶) & 自己紹介タイム	山名 淳
10:00-11:30	講演「 <sup>けいこ</sup> 稽古のしなやかさ —世阿弥『伝書』における稽古の仕掛け—	西平 直
11:30-13:00	昼休み ※お弁当をご希望の方は、受講申し込みの際にお申し出下さい(キャンセルは 8 月 5 日まで)。	
13:00-13:45	講演「E.FORUM スタandard とは何か」	西岡 加名恵
14:00-17:00	教科等別分科会(実践報告 & 実践交流)	下記参照

### 講演「稽古のしなやかさ

#### —世阿弥『伝書』における稽古の仕掛け—

「稽古」の思想。その原点とされる世阿弥の『伝書』。確かに読みにくい中世日本語なのですが、不思議な魅力に満ちています。例えば「わざ」は「わざとらしく」なってはいけません。「用心は必要」なのだが「用心しているうちは」いまだ達人ではない。稽古は「上手くなろう」とすること、しかし「上手くなろうとしなくなる」ことでもある。世阿弥にとって稽古の知恵は「自分自身との関わり方」の工夫なのです。「型」「無心」「離見の見」といった言葉を手がかりに、日本の思想の「しなやかさ」を体験したいと思います。



### 講演「E.FORUM スタandard とは何か」

E.FORUM では、各教科・各学校段階において用いることができる質の高いパフォーマンス課題、及び対応する「本質的な問い」や「永続的理解」を共有し、「E.FORUM スタandard」として整理する取り組み(「プロジェクト S」)を進めています(次頁参照)。校種・地域を超えて E.FORUM 会員の知見を広く集約することによって、学校現場に役立つスタandard を発信していくことをめざしています。

本講演では、「プロジェクト S」の趣旨や経緯をご説明するとともに、E.FORUM が開設しているデータベース「E.FORUM Online (EFO)」(次々頁参照)について概要をご紹介します(3 日目のセッションでは、「EFO」の操作を実際に体験していただきます)。

### 教科等別分科会 (実践報告 & 実践交流)

興味のある教科等ごとのグループに分かれ、実践報告・研究報告の後、参加者が持ち寄った実践資料を交流していただきます。「学校教育研究フェスタ」のみご参加の方は、ご希望の教科等の実践資料をご持参ください。

(基礎講座一日目のワークショップ A・B に参加される方は、その成果物を紹介・検討していただく時間となります。)

分科会名	内容	会場	担当者
① 総論 (芸術・実技系教科、 総合、教員研修など)	◆ 「E.FORUM スタandard」の提案と検討 技術・家庭科: 北原 琢也(元・京都橘大学教授) 音楽科・美術科: 小山 英恵(鳴門教育大学准教授) ◆ 実践交流	教育 7 演	西岡 加名恵
② 国語・社会・英語	◆ 「E.FORUM スタandard」の提案と検討 国語科: 羽山 裕子(京都大学大学院生・ 日本学術振興会特別研究員) 社会科: 鋒山 泰弘(追手門学院大学教授) 英語科: 赤沢 真世(立命館大学准教授) ◆ 実践交流	文新 1・2 講	鋒山 泰弘 赤沢 真世
③ 算数・数学・理科	◆ 「E.FORUM スタandard」の提案と検討 算数・数学科: 石井 英真(京都大学准教授) 理科: 中池 竜一(京都大学助教) ◆ 実践交流	教育 8 演	石井 英真 中池 竜一

※配布資料の印刷をご希望の場合は 8 月 5 日(月)までに原稿(A4 判 8 ページまで)を事務局にご送付ください。  
印刷して持参される場合は、50 部(参加者全員への配布を希望される場合は 200 部)をご用意ください。

# 交流

から生まれる

# 共有知



## ▶「プロジェクトS」

E.FORUM では、研修の場を提供するだけでなく、そこから生まれた新たな知見を発信していきたいと考えています。

2009年に始動した「プロジェクトS」では、全国の会員の先生方とともに、スタンダード作りに取り組んでいます。スタンダードとは、社会的に共通理解された目標＝評価基準です。本プロジェクトでは、各教科における重点目標とは何かを探り、包括的な「本質的な問い」・「永続的理解」について議論していくとともに、学校を超えて使える「パフォーマンス課題」を開発し、さらには児童・生徒の作品を分析して学年を超えた発達を捉える「長期的ルーブリック」を開発していきたいと考えています。過去二年のフェスタでは、教科等ごとに「スタンダード作り」基礎資料集』に蓄積された知見を検討するシンポジウムを行いました。

『「スタンダード作り」基礎資料集』の内容は「E.FORUM Online (EFO)」(※次項参照)に蓄積され、E.FORUM 会員はいつでもご覧いただけます。

「永続的理解」とは？  
数年たって詳細を忘れた後でも身に付けておいてほしいような、重要な理解。「永続的理解」は、学問の中心にあり、新しい状況に転移可能なものである。また、教室の中だけでなく、生活場面など様々な状況において価値を持つような理解である。

「本質的な問い」とは？  
カリキュラムや教科の中心にあり、探究を促したり、本質的な内容を看破することを促進したりするような問い。単元全体を貫いたり、単元を超えて繰り返し問われりするような問いである。

### ▼用語解説

「パフォーマンス課題」とは？

複数の知識やスキルを、状況の中で総合して使いこなすことを求めるような、複雑な課題(レポートやプレゼンテーションなど)。「真正の」パフォーマンス課題では、リアルな文脈(あるいはシミュレーションの文脈)において知識やスキルの活用が求められる。

「ルーブリック」とは？

成功の度合いを示す数レベル程度の尺度と、各レベルに対応するパフォーマンスの特徴を記した記述語から成る評価基準表。自由記述問題やパフォーマンス課題など、O×で採点できない評価方法での採点指針として用いられる。

# 笑顔に繋がる実践力。

## 昨年度の受講者の声

(写真は昨年度の研修の様子です。)

### 講演「21世紀における図書館 —学習空間を考える」(担当・川崎 良孝)について

「図書館が大好きなので、校内の図書館をどう発展させていくかなど、楽しく構想しながら聞かせていただきました。」  
(高等学校教諭)

「図書館は情報源として、すごく興味をもっていました。アメリカの図書館の歴史や文化的背景などを詳しく丁寧に教えていただき、大変勉強になりました。」  
(小学校教諭)



### 教科等別分科会について

「実践交流タイムではより具体的な意見交換ができて、とても参考になりました。使えそうなもの、自分の学校用にアレンジして取り組めそうなものがありました。また、作ったパフォーマンス課題にもいろいろなアドバイスをいただけて有り難かったです。」  
(高等学校教諭)

「小中高と校種は違いましたが、違っていたからこそ興味あるお話を聞くことができたと思います。」  
(小学校教諭)



# スクールリーダー育成のための基礎講座 < 3日目 >

8月19日(月)

会場: 学術情報メディアセンター(メディア演習室 203)

9:00- 9:30 受付

(担当者)

9:30-11:30 演習「『E.FORUM Online』の活用」

中池 竜一

11:30-12:00 クロージング

松井 保樹

西岡 加名恵

## 『E.FORUM Online』の活用

「E.FORUM Online」の機能についてご説明するとともに、研修成果の資料等を入力していただきます。

- ※ パソコンの台数に限りがあるため、定員は50名となります。
- ※ ユーザー名として、ご自身のパソコンのメールアドレスを用います。受講前にご用意ください。登録されたメールアドレスには、今後の研修のご案内等が自動的に届くことになります。
- ※ 申込完了時にお送りする「E.FORUM Online(EFO)登録証」を忘れずにご持参下さい。

昨年度の受講者の声  
(写真は一昨年度の研修の様子です。)

「新たなEFOでは、様々なファイルが使用できるのが有り難いです。」  
(小学校教諭)

「マニュアルがあってもなかなか自分で、実際に手取り足取り教えていただくととてもわかりやすく、使えそうな気がしてきました。」  
(中学校教諭)



## 「E.FORUM Online (EFO)」とは？

E.FORUM では、会員の方が開発された様々な実践資料を継続的に蓄積・共有するため、「E.FORUM Online (EFO)」を開設しています。EFO に蓄積された各種のデータ(単元指導計画、パフォーマンス課題やルーブリックなど)は、会員が日常的に活用し、実践に役立てることができます。また、寄せられたご質問に対し、講師が回答するサービスも行っています。

「スクールリーダー育成のための基礎講座」を受講された方は、EFO が利用できる「E.FORUM 会員」として自動的に登録されます(会費は無料、退会はいつでも可能です)。



E.FORUM のホームページ  
<http://www.educ.kyoto-u.ac.jp/e-forum/>



発言例:  
「unit67 に、今、授業でやっている課題について書き込みました。アドバイスをコメント等お願いします。」



「閲覧」をクリックすると、そのユニットのページが開きます。

単元指導計画、パフォーマンス課題、ルーブリック、ワークシート、児童・生徒の作品例など、各種データが掲載されています。

# 講師紹介

Ohno Terufumi  
大野 照文

京都大学総合博物館 教授



小さい頃から好きだった化石やその他、様々なモノを調べる研究の楽しさを、とりわけ子ども達に伝えることに情熱を燃しています。その経験をもとに皆さんと一緒に博物館を伝える取り組みをします。

主な著書:『博物館で学びの起こるとき』『だれもが楽しめるユニバーサル・ミュージアム』(読書工房、2006年)、『澄江生物群化石図譜』(監訳、朝倉書店、2008年)など。

Nishihira Tadashi  
西平 直

京都大学大学院教育学研究科 教授



専門は教育人間学(ライフサイクル研究)。雑多な思想研究を続けています。大学も転々、五年前に京都に来ました。このところ毎年ブータンに通っています。

主な著書:『エリクソンの人間学』(単著、東京大学出版会、1993年)、『魂のライフサイクルーング・ウィルバー・シュタイナー』(単著、東京大学出版会、1997年)、『教育人間学のために』(単著、東京大学出版会、2005年)、『世阿弥の稽古哲学』(単著、東京大学出版会、2009年)など。

Hokoyama Yasuhiro  
鋒山 泰弘

追手門学院大学心理学部 教授



学力形成と評価の方法について、主に日本とイギリスの比較を通して研究しています。本シンポジウムでは、社会科学のスタンダード作りについて、提案致します。

主な著書:『授業と評価をデザインする:社会』(共著、日本標準、2010年)、『教師になること、教師であり続けること』(共著、勁草書房、2012年)など。

Nishioka Kanae  
西岡 加名恵

京都大学大学院教育学研究科 准教授



専門は教育方法学(カリキュラム論・教育評価論)です。近年はパフォーマンス評価を中心に研究しているほか、学校におけるカリキュラム改善の進め方にも関心を持っています。本研修が、全国の先生方の有意義な交流の場ともなることを願っています。

主な著書:『教科と総合に活かすポートフォリオ評価法』(単著、図書文化、2003年)、『「活用する力」を育てる授業と評価 中学校』(共編著、学事出版、2009年)など。翻訳『理解をもたらすカリキュラム設計』(日本標準、2012年)も刊行。

Akazawa Masayo  
赤沢 真世

立命館大学スポーツ健康科学部 准教授



アメリカにおける入門期の英語教育において、特に基礎的なスキルの指導に注目しながらカリキュラムや指導方法のあり方を研究しています。また、このような視点から日本の小学校英語教育についても関心を持っています。

主な著書:『外国語活動—子どもの実態を踏まえ、伝え合うコミュニケーション場面を設定する』田中耕治編著『小学校新指導要録改訂のポイント』(日本標準、2010年)、『阿原成光と英語教育』『時代を拓いた教師たちⅡ』(日本標準、2009年)など。

Ishii Terumasa  
石井 英真

京都大学大学院教育学研究科 准教授



学力形成の理論と実践について研究しています。このような視点から算数・数学教育にも関心を持っています。本研修が、それぞれの学校のカリキュラム開発を支え励ますものになることを願っています。

主な著書:『現代アメリカにおける学力形成論の展開』(単著、東信堂、2011年)、『パフォーマンス評価—思考力・判断力・表現力を育む授業づくり』(共著、ぎょうせい、2011年)、『教職実践演習ワークブック—ポートフォリオで教師力アップ』(共著、ミネルヴァ書房、2013年)など。

Nakaike Ryuichi  
中池 竜一

京都大学大学院教育学研究科 助教



認知科学と教育学を専門に、科学教育を支援する教育情報システムの研究を行っています。「カリキュラム設計データベース(CDDB)」「E.FORUM Online」の開発者であり、教科等別分科会では理科も担当します。本研修が、より質の高い指導案の作成や授業改善に役立つことを願っています。

主な論文:『認知科学の入門的授業に供する Web-based プロダクションシステムの開発』『人工知能学会論文誌』(共著、2011年)など。

Matsui Yasuki  
松井 保樹

京都産業大学附属中学・高等学校 講師



私立中学・高校で社会科学(主に公民科目)を教えています。E.FORUM には初年度からお世話になり、「カリキュラム設計データベース(CDDB)」「E.FORUM Online」のマニュアル作成に関わらせていただきました。全国の先生方とお会いできることを楽しみにしております。

運営担当:

黒田 真由美  
宮崎 宏江

教育実践コラボレーション・センター 研究員  
京都大学大学院教育学研究科 E.FORUM 事務局

# 会場案内

※京都大学ホームページ(<http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/access>)もご参照ください。



**受付&メイン会場**  
文学部新館 3 講

8/18(日) 教科等別分科会  
教育学部演習室ほか

8/17(土) ワークショップB  
総合博物館

8/19(月)の受付&会場  
学術情報メディアセンター(南館)  
2 階 メディア演習室 203

※ 駐車場はありませんので、公共交通機関をご利用下さい。

- JR・近鉄 京都駅より
  - ・ 混み合うシーズンに一番早いルートは、地下鉄烏丸線で今出川駅まで行き、そこからバスかタクシーで移動する方法です。
  - ・ 市バス 206 系統「東山通北大路バスターミナル」行「京大正門前」下車。所要時間 約 40 分。
  - ・ タクシー 所要時間 約 25 分。
- 地下鉄烏丸線 今出川駅より
  - ・ 市バス 201 系統「百万遍・祇園」行「京大正門前」下車。所要時間 約 15 分。
  - ・ 市バス 203 系統「銀閣寺通・錦林車庫」行「百万遍」下車。所要時間 約 15 分。
  - ・ タクシー 所要時間 約 10 分。
- 阪急 河原町駅(出口6番)より
  - ・ 市バス 31 系統「東山通 高野・岩倉」行「京大正門前」下車。所要時間 約 25 分。
  - ・ 市バス 201 系統「祇園・百万遍」行「京大正門前」下車。所要時間 約 25 分。
  - ・ タクシー 所要時間 約 15 分。
- 京阪 出町柳駅(出口4番)より
  - ・ 市バス 201 系統「祇園・みぶ」行「京大正門前」下車。所要時間 約 5 分。
  - ・ タクシー 所要時間 約 5 分。
  - ・ 徒歩 所要時間 約 10 分。

※ 宿泊については、各自で手配していただきますようお願いいたします。